

PROGRAM

木管五重奏とサクソフォーンによるフランス音楽の夕べ

第1部

第2部

《管楽六重奏》

《木管五重奏》

管弦五重奏曲

J. フランセ

《サクソフォーンとピアノ》

アリアとブルチネラ

E. ポザ

室内小協奏曲

J. イベール

「子供の領分」より

・人形のセレナード

・小さな羊飼

・ゴリウォーグのケーキ・ウォーク

C. ドビュッシー

(編曲 大澤 微訓)

管楽六重奏のための「春」

H. トマジ

スカラムーシュ

D. ミヨー

四季のコンサート 冬

1986年12月2日(火) PM6:30

浜松市民会館ホール

主催: 浜松音楽友の会

歌の夕べ 大島洋子 青山智英子 黒田昌也 大庭義世
1987年春のコンサート 1987年4月1日(火) PM6:30

大室勇一氏の朗讀。
CD-R。

ア、聖母の命の命、A-Sax奏者として活躍する他、ヨリナリ
オーバーライブでアーティストとして活躍、聖母命の命の命、
アーティストとして、A-Sax奏者として活躍する他、ヨリナリ

(アーティストとして、A-Sax奏者として活躍する他、ヨリナリ
1985年 第8回ムーラン・ル・バード・コンサート・ペーパーに
アーティストとして、A-Sax奏者として活躍する他、ヨリナリ
1980年 黒川恭樹大學生音楽部会員。
1981年 韓国映画音楽コンサートゲスト
1982年 第51回日本音楽大賞2位
1983年 黒川恭樹大学院修士課程受賞。
1984年 同大学卒業。

一ノ瀬恭樹大學生院修士課程受賞。
芸大附属生懇親会委員会にて、アーティストとして活躍。

1983年 黒川恭樹大学院修士課程受賞。

1984年 同大学卒業。

1985年 第51回日本音楽大賞2位
アーティストとして活躍する他、ヨリナリ

会場指揮者として、アーティストとして活躍する他、ヨリナリ

楽器部門第1位入賞。東京文化

賞受賞者として、アーティストとして活躍する他、ヨリナリ

音楽大賞。

1986年 第51回日本音楽大賞2位
アーティストとして、A-Sax奏者として活躍する他、ヨリナリ

北高音楽祭受賞。

新潟音楽祭、南砺中学校、新潟

音楽大賞受賞。

須川展也 (すみかわ のぶや)

アーティスト。

1986年 第51回日本音楽大賞2位
アーティストとして、A-Sax奏者として活躍する他、ヨリナリ

音楽大賞。

須川展也 (すみかわ のぶや)

アーティスト。

プロフィール

ルヴァンペール木管五重奏団

大澤明子（フルート）

東京芸術大学大学院修了

1982年 安宅賞受賞。

富田和子（オーボエ）

国立音楽大学卒業、現在神奈川フィルハーモニー団員。

加藤明久（クラリネット）

国立音楽大学卒業、矢田部賞受賞。
現在 東京クラリネットアンサンブル団員。

菅原恵子（バスーン）

武藏野音楽大学卒業、現在新星日本交響楽団員。

藤田乙比古（ホルン）

日本大学芸術学部卒業、イギリス、ギルドホール音楽院留学。
1980年 カットレー室内楽賞受賞。

1982年10月に結成。'83年9月 目黒区民センターにてデビューリサイタル。同年10月第18回民音室内楽コンクール第二部門で第1位入賞。NHK・FM、FM東京で録音。
'84年杉並公会堂で第2回リサイタル。広島県竹原市へ演奏旅行。'85年6月石橋メモリアルホールで第3回リサイタル。8月、横浜・山手ゲーテ座にてコンサート。9月、第34回ミュンヘン国際音楽コンクール木管五重奏部門に木管五重奏としては日本人で初めて参加し、アメリカ・フランス勢を抑え、ファイナリストになる。'86年6月石橋メモリアルホールで第4回リサイタル。この間全国各地でコンサート、クリニックを行う。メンバーは全員20代ながら、完全固定メンバーで活動している日本では数少ない木管五重奏団。実力は各方面より賞讃されている。'87年2月には東京文化会館小ホールにて第5回リサイタル又6月には横浜・山手ゲーテ座にてコンサートを予定している。

小柳 美奈子（こやなぎ みなこ）



1981年

新潟県音楽コンクール大賞受賞。

1983年

県立高田高等学校卒業。

1984年

東京芸術大学器楽部ピアノ科入学。

・現在、同大学4年在学中。

・ピアノを安川加寿子、梅谷進、泰はるひの各氏に師事。

管楽五重奏曲

ジャン・フランセ（1912～）

今日のフランスでラヴェルやブルックの作品に見られた喜遊性と気品の高い芸術的創作とを非常に見事に融合させている作曲家と言えば、誰でもジャン・フランセの名をあげるのではないだろうか。彼は極めて音楽的な環境で、少年時代より楽才を發揮しており、6歳の時にピアノ曲を、20歳の時には、最初の交響曲の作曲をしている。又ピアニストとしても活動しており、ベルリンフィルハーモニー管弦楽団が彼のピアノ協奏曲を初演する際に独奏を務めたのは、作曲者自身である。近年は自分の娘たちにピアノをまかせ、指揮者として自作等を演奏するようである。

彼が20歳を迎えた1932年以来、ほとんどあらゆるジャンルにわたって作品を発表しているが、この五重奏曲は、1948年作曲者36歳の時の作である。

曲は、明朗で、くったくのない、そして特有の喜遊性・軽快性、そして時にユーモアを含む四つの楽章から出来ている。難しいアンサンブルの要求させる曲であるが、各楽器の特色が生かされた作品で、木管五重奏の名曲の一つである。

第1楽章 アンダンテ・トランクィーロ——アレグロ アッサイ

第2楽章 プレスト トリオと記された中間部（ウン・ボコ・レント）と
プレスティッキモに至るコーダつき。

第3楽章 アンダンテ 第5変奏までの変奏曲形式。

第4楽章 テンポ・デ・マルチア・フランチーズ（フランス風行進曲のテンポで。）

曲目解説 藤田乙比古

室内小協奏曲（コンチェルティーノ・ダ・カメラ）

ジャック・イペール（1890-1962）

本日演奏する6つの楽器のうち、一番歴史の浅いのがこのサクソフォーンです。とかく機能的になりがちな現代の楽器のなかでは多くの素晴らしい演奏家達の手によって芸術的に認められていった数少ない楽器の中の一つです。そしてこのイペールの協奏曲が作られ演奏されるようになってからは、クラシック音楽界においてない楽器となりました。13分弱の短かい曲の中に、数多くの要素、魅力がちりばめられています。シンコペーションやミニッシュスケール等、ジャズの影響が見られます。曲は2つの楽章よりなり、第2楽章はラグゲットの憂うつなブルース調なものが切れ目なしに躍動的なしらべに変わってゆきます。この洗練された世界にイペールの「生鶏のバリ」を感じます。本日はピアノとのデュオで演奏致します。

「子供の領分」より

クロード・ドビュッシー（1862-1918）

ドビュッシーはフランス印象主義の音楽を策いた、音楽史上重要な人物です。数多くのピアノ曲、管弦楽曲を聴いてわかるように、どの作品をとっても色彩豊かでまるで絵画を観ているような錯覚にとらわれます。「子供の領分」は愛娘にささげたピアノ小品集6曲からなります。管楽器での演奏困難な曲を除き、大澤氏のスペシャルアレンジメントで演奏致します。このめずらしい管楽6重奏によって新たな音の世界を繰り広げていきます。

管楽6重奏のための「春」

アンリ・トマジ（1901-1971）

トマジはコルシカ系の人で、パリ音楽院に学びました。1930年代にはインドシナ放送の音楽監督をつとめ、東南アジアにも通じた作曲家です。

この曲（1963）は、木管五重奏とサクソフォーンからなる室内楽曲です。鳥のさえずりをテーマとして、それを見事に音楽化しています。「鳥の目覚め」「愛の歌」「鳥のダンス」の3つの部分から構成されています。6つの楽器それぞれに、いろんな鳴き声が出てきます。美しい音や、けたたましい音、いろいろな鳥を思い浮かべながらお聴きください。

「スカラムーチュ」

ダリュース・ミヨー（1892-1974）

ミヨーは第1次大戦後のフランス6人組の中心人物。モリエールの児童劇「空とぶお医者さん」（1937）のために書かれ、この中から後に「スカラムーチュ」（同年）と改作されました。「スカラムーチュ」とは辞書には「イタリア笑劇の道化役」（黒ずくめの衣装にギターを持った空威張りする憶病者）とあります。この曲をきくにあたっては、あまり心にとめる必要もないでしょう。

この曲はピアノの連弾として知られていますが、作曲者自身の手でサクソフォーンのために書かれています。第3楽章のサンバは有名で、一度はきいたことのあるメロディーだと思います。

サクソフォーンで演奏する場合はピアノの伴奏がほとんどですが、ここに木管五重奏との編曲版があり、紹介したいと思います。

とても可愛らしい魅力的なアンサンブルがきかれると思います。